

第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

強い冷えと排尿後の違和感、 下肢痛に対する漢方製剤の使用経験

名古屋大学大学院医学系研究科 泌尿器科学

○松尾 かずな、井上 聡、坂元 史稔、石田 昇平
馬嶋 剛、舟橋 康人、藤田 高史、佐々 直人
松川 宜久、加藤 真史、吉野 能、山本 徳則
後藤 百万

高齢女性に、強い手足の冷えを訴える患者さんがみえる。東洋医学では、こうした冷えから来る諸症状を改善する効果があり、漢方薬にて随伴症状が軽快することをしばしば経験する。我々は、強い四肢の冷えと下腹部の違和感が、冷えに対処することで、おおむね症状の消失をみた症例を経験したので報告する。

【症例】74歳女性

【主訴】下腹部痛と不快感、四肢の冷え

【現病歴】2年前より主訴あり。排尿により不快感が解消するため、泌尿器科受診するも、問題なしとのことであった。症状の改善がなく、当科受診。夏でも厚手の靴下をはかなければ冷えて手足に痛みが生じるほどとのことであった。症状は夜間帯に強く出るとのこと。内臓の下垂感があるとのこと。婦人科的精査を行うも、腫瘍性病変や骨盤臓器下垂なし。造影CTおよびIVPでも異常なし。下垂感と冷えに対して、補中益気湯処方も、冷えの若干の改善のみであった。十全大補湯に変更したところ、冷えは中等度に改善も、消化器症状と下腹部不快感持続あり。六君子湯を追加処方した。冷えはさらに改善したが、胃部不快感が持続した。消化器症状が強いため、十全大補湯を自己判断で中止。当帰四逆加呉茱萸生姜湯と六君子湯に変更したところ、四肢の冷えが著明に改善。下腹部の不快感もおおむね消失した。消化器症状の残存があり、六君子湯を中止、当帰四逆加呉茱萸生姜湯のみとして経過観察している。